

公共交通網の維持に向けた積極的な施策の展開

提言①

本市の公共交通について考える場の積極的かつ計画的な創出

本市の公共交通の現状を共有し、「乗らなければ維持できない」ということを市民に広く理解してもらうことが重要であることから、地域を単位として、公共交通について考える場（現状の説明と維持活用に向けた意見交換など）の開催計画を立て、行政が積極的にアプローチするなど、積極的かつ計画的に取り組まれない。

【現状と課題】

多くの市民が、公共交通は、将来において必要な移動手段との認識を持ちながら、実際には、ほとんど利用していないというギャップがある。

このため、舞鶴市地域公共交通計画においては、市民一人一人が問題意識を持ち、本市の交通がどうあるべきかを考える必要があることから、本市の公共交通を考える場を創出することとしている。

しかしながら、コロナ禍という状況があったとはいえ、そうした場が多く創出されたとは言い難い。

市民に広く理解してもらうためには、相応の期間も要すると思われることから、早期に着手するとともに、中学校区や小学校区を単位とした開催など、より多くの機会を創出することが重要であると考えます。

【効果】

市民の公共交通に対する理解が深まり、利用する意識の醸成が図られることにより、自家用車から公共交通への転換を促し、利用者数の維持または増加につながることを期待される。

また、公共交通を維持していくための公費の投入に対しても、理解が得られることが期待される。

提言②

バスやタクシーの乗務員不足に対する支援

事業者が抱える課題として、利用者の減少に加え、乗務員不足が深刻化していることから、乗務員の処遇改善を行う事業者に対して支援を行うなど、行政としても乗務員不足の解消に向けて積極的に関わり、課題の解決に取り組まれない。

【現状と課題】

バス・タクシー事業者との意見交換を通じて、将来的な予測も含め、乗務員不足に危機感を持っている状況を確認した。

事業者においても、様々な機会を通じて乗務員の確保に取り組まれているが、求人を行っても応募がない状況であり、労働条件や収入面などがネックになっているものと考えられている。

第7次舞鶴市総合計画前期実行計画においては、鉄道、路線バス及び自主運行バスの運行支援により、公共交通の維持・確保を図る方向性が示されており、舞鶴市地域公共交通計画においては、タクシーも対象交通機関に含め、人材確保に努めることとしている。

使いやすい公共交通として認識されるためには、利用者ニーズに的確に応える体制も重要であり、公共交通の維持・確保のためには、行政による一歩踏み込んだ支援も必要であると考えられる。

【効果】

乗務員の増加が安定的な運行に寄与し、交通機関としての信頼・信用が高まることにより、利用者の維持・確保が図られ、将来にわたる公共交通の維持・確保につながることを期待される。

また、利用者の維持・確保が図られることにより、事業者の収支が改善し、公的資金投入額の低減につながることを期待される。

提言③

安心・安全で安定したサービスの提供に向けた取組に対する支援

安心・安全で安定したサービスの提供は、事業者の役割であるが、実施できる範囲にも限界があり、その維持・向上に苦慮されていることから、鉄道の線路へ侵入する動物への対応や、地域・民間企業と連携したバスの待合環境の改善等において、行政が積極的に調整役を担うなど、利用者ニーズと事業者の意向を踏まえた支援に取り組まれない。

【現状と課題】

交通事業者及び市民との意見交換を通じて、事業者が行う安全対策について、法的に事業者自らが行えないこともあるなど、限界があることや、市民ニーズはあるものの、経費面などから困難なこともあることを確認した。

舞鶴市地域公共交通計画においては、安心・安全で安定した運行と利用者目線でのサービス提供に努めることが、事業者の役割として位置付けられているが、同時に、地域、行政、関係機関との連携強化も役割とされている。

他市では、鉄道への動物の侵入を防ぐためにワナを仕掛けて駆除し、衝突事故を減少させた例や、バス停へのベンチや自動販売機の設置を民間企業の協力により実現している例があり、いずれも有効な手段の一つであると思われる。

行政が、経費面の支援だけではなく、地域や企業との連携に当たって調整役を担うことにより、解消に向けて動き出す課題もあると思われることから、その役割を積極的に担う姿勢が必要であると考えられる。

【効果】

安心・安全で安定したサービスの提供によって、利用者の信頼・信用が高まり、利用者の維持・確保が図られ、将来にわたる公共交通の維持・確保につながることを期待される。